

笑顔と汗と涙と



先日は、大変暑い中に本校運動会にお越しただきありがとうございました。

私はとても元気をもらいました。さまざまな場面での子どもたちの姿によって、笑顔になり、声を出して応援したくなり、何よりも目頭が熱くなりました。その中の三つの場面をお伝えします。

一 「誓いの言葉」にジンとなる

この時の光景は、校長の私にしか見えません。指令台上の私を目をそらすことなくしっかりと見つめ続ける二つの顔。そうしながら誓いの言葉を力強く述べていく二人の団長の姿です。予行のときからそうでした。予行も本番も同じなのです。一切手を抜かない、常に全力という今年の団長の心意気がビリビリと伝わってきました。二人の瞳の奥の澄み渡った美しさから、団長として責任をもって頑張りたいという純粋な気持ちがよく見えました。あの場、あの瞬間だからこそ、ものすごくよく見えたのだと思います。二人には本番までいろいろな重圧があったと思います。それらによくぞ耐え抜いて、責任を果たしてくれました。本当にありがとうございます。また、支えとなった学年・学級の仲間や職員、そして何よりもご家庭に感謝いたします。あの目を見たら…、そら泣きますよ。

宣誓！
今年の運動会スローガンは、
「全力で団結して、
勝つても負けてもハッピースマイルな運動会」

私たちは、今日この日まで全力で練習してきました。
見せます！
赤団の精一杯頑張る姿と
絶えず輝く笑顔を見せます！

白団の力をあわせて優勝する姿を！
たくさん支えの中で、感謝し、
運動会ができることに感謝し、
どんなときも笑顔いっぱい、
令和六年五月二十五日

赤団団長 堤仁那
白団団長 田中タイタス



二 「縁の下の力持ち」にウツとなる

今年、応援団を決めるとき、定員の倍以上の希望がありました。ゆえに、応援団になれない児童がかなりの数になります。惜しいのは、その人数分の「やる気」も宙に浮いてしまうことでした。そこで、そういった子どもたちへ「日々のグラウンド整備をお願いできないか」という提案が六年部職員から出されました。そういう経緯でグラウンド整備が始まりました。彼らによって石ころや木の枝などは確実に取り除かれ、トンボやブラシでよく整備されたからこそ、大きなケガもなく練習も本番も終えることができました。しかも彼らは、応援団が裸足で演技することを知ってから、さらに真剣に取り組んだといえます。自分たちは応援団になれなかったのにです。（ここ目頭アツアツポイントです）本当にありがとうございます。六年部職員から感動秘話のように聞きましたが、秘話にできない泣ける話です。

三 「校歌斉唱」にグツとなる

閉会式で校歌を歌い出す瞬間まで、自覚症状はありませんでした。ですが、みんなと一緒に歌い出そうとした瞬間、私は歌えなくなりました。トラックを隔てた児童テントや、本部テントにいる児童の歌う表情や大きな歌声に、無条件にグツと感じてしまいました。一生懸命歌ういい顔をした子どもたちと、それを見守る職員、保護者、地域の方々との温かい雰囲気を感じ、嬉し泣きです。

ハッピースマイルな運動会は見事に実現しました。子どもたちだけでなく、たくさん大人の人もハッピースマイルになりました。「ハッピースマイル」は、今後も本校のスローガンにします。終わるまでしっかりと見届けてくださったご来賓の皆様、片付けに力を貸してくださったり、百五十周年記念タオルをバンバン販売していただいた保護者・地域の皆さまをはじめ、本校運動会に力を貸してくださった全ての方々と、何よりも元気をくれた子どもたちに深く感謝します。

